

仲間の遺志果たせ

トムール峰 市大隊再挑戦

2年前に3人遭難

6月に 出 発 難関、7人が南面から

二年前に遭難した仲間の志を果たそうと羽横浜市大山トムール峰登山隊(吉田宣明隊長)が六月、中国とソ連の国境にある天山山脈の最高峰、トムール峰(七、四三五メートル)に再び挑む。

今年挑戦するのは中国側の南面からで、前回の横浜市大山踏査の会(小林義雄会長)のときと同じ。これまで南面からは、一九八六年に日本女子登山隊(田部井淳子隊長)らがアタックしたが、成功したのは七年の中国隊だけ。成功すれば外国隊として初めて「トムール」とはウイグル語で「鉄の山」の意。不安定な気象と雪崩の多さで登山の困難さには定評がある。三七年に発見されて以来、約三百人の登山家が挑

み六十人以上が二度と戻らぬ人となったといわれ、九〇年夏の横浜市大山踏査の会も西堀秀二隊長はじめ三人が氷河の崩壊で遭難した。

予定では、前回の隊員三人を含む同大の学生、OBら七人が六月二十二日に中国ウルムチに向け出発。六月末には三、九〇〇メートル地点にベースキャンプを設営

し、七月二十二日に全員で頂上を目指す。前回は六、三〇〇メートル付近の第三キャンプで三人が消息を絶ったとあって、今回は雪崩の起きにくい六、八〇〇メートルに第三キャンプをつくり事故回避を図る。

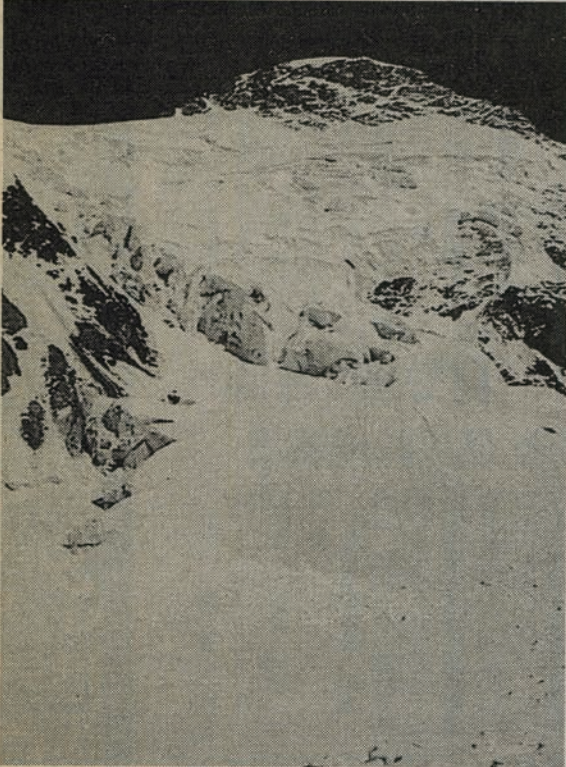
京大山岳会が 事故調査報告

梅里雪山17人遭難で

中国雲南省の梅里雪山(標高六、七四〇メートル)で昨年一月に起きた京大登山岳会と中国登山協会の日中合同登山隊計十七人の遭難事故で、同山岳会は十四日、事故調査報告書をまとめ発表

した。今後の調査について、未定のため事実上の最終報告。報告書はB5判で百八十三頁。遭難直後に発足した事故調査委員会のもので行われた捜索調査や、国内で開かれた八回にわたる会合などの記録。

報告書によると、事故原因は「予測不能な大規模な大雪崩に巻き込まれたと考えられる」と結論付けている。



天山山脈の最高峰トムール峰

横浜市大隊トムール峰挑戦

吊い登頂成らず

中国と旧ソ連の国境にあ

る天山山脈最高峰、トムール峰(七、四三五㍎)に挑戦していた9日横浜市大天山トムール峰登山隊(吉田宣明隊長ら七人)は悪天候と雪崩などのため、このほど登頂を断念し、帰国した。

二年前に横浜市大天山踏査の会(小林義雄会長)が同峰に挑んだが六、三〇〇㍎付近の第三キャンプで氷河崩壊のため、三人が遭難。今回、その三人の吊い合戦と再アタックしたが、頂上

への道は険しかった。

ベースキャンプ(三、九〇〇㍎)設営から第一キャンプ(四、五六〇㍎)第二キャンプ(五、一〇〇㍎)までは順調だった。

ところが前回雪崩が多発した五、一〇〇㍎付近から千二百㍎以上も切り立つ垂直な壁に今回も苦戦。前回の教訓を生かしルートワークは小刻みに行ったが、アクシデントが続発した。第二キャンプのテントが雪崩で三百㍎下に飛ばされ

たり、隊員も雪崩で立ち往生したり。それでも残った

装備を背負って、少数速攻のアルパインスタイルで再度のアタックをしたが、目の前が真っ白となり視界が利かなくなるホワイトアウトが二日間も続いた。準備

した食料も尽き、吉田隊長(三七)岐阜県本巣郡出身は「安全面が最優先」と登頂をあきらめたという。結局、登ったのは五、八〇〇㍎まで。ルートワーク役を務めた佐藤修史隊員(四

宮崎市出身)は「夜、寝

ていても十分間隔で雪崩の音がして怖かった。日本にはない大きな山の天候を読むのは難しい」と振り返る。「トムール」とはウイグル語で「鉄の山」の意。同隊

の挑戦は、ベースキャンプ地点の岩に飾った三人の墓碑プレートへの無念の報告

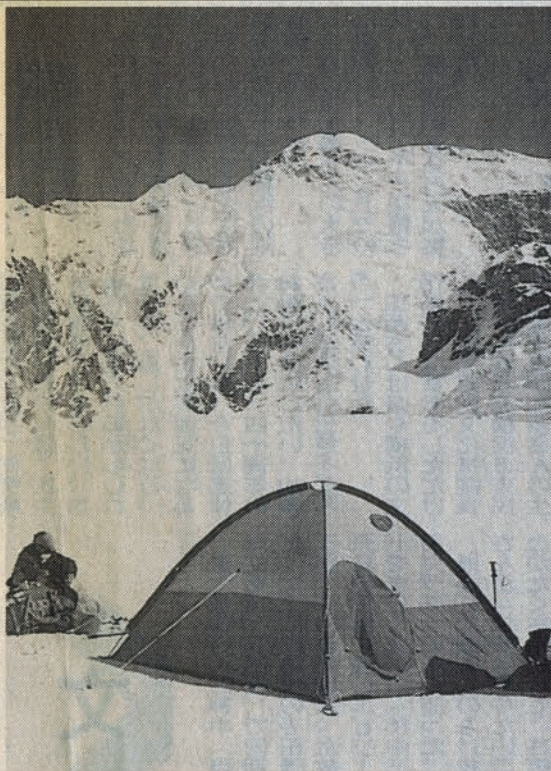
で終わった。

シューマッハー

18戦目で初勝利

F1ベルギーGP

【スパフランコルシャン(ベルギー) 30日ロイター共同】自動車のフォーミュラワン(F1)シリーズ第12戦、ベルギー・グランプリ(GP)は三十日、当地で行われ、ベネトン・フォードのミハエル・シューマッハー(ドイツ)が1時間36分10秒721で優勝した。F1に昨年デビューしたシューマッハーはGP 18戦目で初勝利。2位には第11戦のハンガ



またも登頂を阻まれたトムール山頂を第一キャンプから遠望する

ベースキャンプから出発する隊員たち